

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	2070400193		
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン		
事業所名	グループホームグレイスフル岡谷		
所在地	長野県岡谷市湖畔2丁目6番2号 (電話) 0266-21-7321		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成21年1月21日	評価確定日	平成21年2月9日

【情報提供票より】(平成21年 1月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 7日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤 6人, 非常勤 1人,	常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	光熱水費日額420円(冬季630円)
敷金	有() 円	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年 1月 5日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	5	要介護2	3		
要介護3	1	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 88.3歳	最低	82歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・市立岡谷病院 ・今井内科胃腸科クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

諏訪湖西端の湖畔からやや北側の住宅地に入ると明るい南欧風の二階建ての建物が目を引く。運営法人の哲学というべきサミエル・ウルマンの「青春」の詩が大きく掲げられた1階がデイサービスで2階が当ホームである。開設から7年目を迎え、入居者も併設デイサービスを利用した後申込みをする方が多く、地域での暮らしを安心して継続できる利点がある。市役所職員の現場体験を受け入れたり、地域住民に認知症を理解してもらうために市よりの認知症介護教室の委託を受ける等、理念に掲げた「家族・地域とのつながりを推進する」ことに積極的に取り組み、地域の期待に応えている。意欲や生き甲斐のある生活が送れるように職員は入居者の生活歴、得意なこと、趣味などの情報を共有し、場面作りに取り組んでいる。ホームでの入居者の懸命な役割に対し職員手作りの感謝状が贈られ自室に掲げられていた。ホームの「だるま便り」に掲載された入居者のさりげなく明るい笑顔が「青春」の詩にある「歓喜と興味、希望」を湧かせるようなホームの暮らしの中から自然に出てきていることを目の当たりにした。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 終末期ケアについてはホームとして対応できる最大限の支援方法を運営規定等で本人、家族等に説明がされ、事業所の持てる能力を理解していただいている。今後も本人・家族との話し合いの過程で協力病院への転院や介護保険施設への移動支援について充分説明していただき「安心」に繋げていただきたい。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価で見い出された課題は直ちに検討し改善に取り組むなど事業所のサービスの質の向上に活かしている。前回の評価での課題に対して「住民との交流を増やすため散歩や買物の場所を見直し範囲を広げる」等に着手し成果に結びつけている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的に会議が開かれている。メンバーは入居者、家族、広域連合や市役所の担当課職員、介護相談員、区長、ホーム職員の構成となっている。行事や活動、入居者の生活の様子や職員の異動などを報告し、毎回議題にそって相談や意見交換を行っている。議事録も詳細にわたり記録されている。メンバーからの貴重な意見は職員会議で報告されサービスの質の向上に活かしている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時には意見、要望等を聞いている。家族会はないが各入居者の誕生日会が行われ、家族も参加している。運営推進会議にも家族の代表者が出席しており意思疎通は図られている。ホーム便りに日々の様子や暮らしぶりが詳細に掲載され家族に伝えられている。その他に家族に報告する一つとして一人ひとりの記録集を作成している。健康面に関しては電話等で報告している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事に出かけたり、住民がホームの行事に参加するなど交流が行われている。中学生、高校生、専門学校生の体験や実習場所ともなっている。また市職員の現場体験も行われている。今後は区民センターや地区住民等との関わりを深め、もっと地域の行事や催し事に参加したいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりを推進することも織り込んだホーム独自の理念がつけられている。基になる法人の理念にも地域の街づくりへの貢献や地域社会の変化等にも対応すべきことが掲げられており、連動したものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日午後の申し送り時には法人及びホームの理念を唱和し、日々、サービスの提供場面で理念が実践できるよう取り組んでいる。職員は自分の言葉で理念を語る事ができた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設全体の創業祭りや夏祭りに地区の住民の方を招待している。地区のお祭りにも協賛金という形で協力している。高校生の職場体験、中学生の授業の一環としての訪問、傾聴ボランティア研修や専門学校生の介護実習などの受け入れを行っている。日本舞踊など各種ボランティアも数多く来訪している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は手分けをして作成している。評価で見い出された課題に対して「住民との交流を増やすため散歩や買物の場所を見直し範囲を広げる」等に着手し改善につなげた。		

グループホームグレイスフル岡谷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議が開かれている。ホームの行事や活動、入居者の生活の様子や職員の異動など報告し、毎回議題にそって相談や意見交換を行っている。メンバーからの貴重な意見は職員会議で報告しサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所職員の現場体験を受け入れている。市より認知症介護教室の委託（H17年より毎年契約を更新）を受け地域住民に認知症を理解してもらうことに取り組み、期待に応えている。市担当者から社会資源、ボランティア等の情報をもらいホームの行事などの機会に活用している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者のつぶやきから銘々された「だるま便り」に日々の様子や暮らしぶりを掲載し伝えている。その他に家族に報告する一つとして一人ひとりの記録集を作成している。買物などのレシートは毎月、ホーム便りや利用請求書と一緒に家族に送っている。小遣い帳は半年毎コピーし家族に渡している。健康面に関しては電話等で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には意見、要望等を聞いている。家族会はないが各入居者の誕生日会が行われ、家族も参加している。運営推進会議にも家族の代表者が出席しており意思疎通は図られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代の時は入居者一人ひとりの情報の理解やマンツーマン対応などでの取り組みを行い、入居者に不安や動揺が起らないよう配慮している。		

グループホームグレイスフル岡谷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には研修・教育計画があり、レベルに応じて参加した課題を持って臨んでいる。研修参加後は報告書を作成、報告の機会もあり、全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内施設間の交換研修が定期的に行われている。交換研修を行うことで各事業所は切磋琢磨しサービスの質向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスの利用者からの申し込みが多く、馴染みの関係はサービス開始前から始まっている。ホームの見学受け入れや職員による自宅訪問も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅漬けや料理のこと、また、ビデオの懐メロ、時代劇、寅さんの映画などを見ながら昔のことを懐かしみ、昔の遊びや戦争の話など沢山のことを入居者から教えてもらっている。		

グループホームグレイスフル岡谷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの呟きを記録に残し、思いや意向の把握に努めている。意思表示が困難なときは表情やしぐさで判断している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が自立した生活が送れるように全職員で意見を出し合い介護計画が作成されている。作成された介護計画は入居者家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行ない遂行状況を確認している。3ヵ月ごとに心身状況のアセスメントをし見直しを行っている。入居者の状態や意向等に変化が生じたときには関係者で検討し、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスの利用者との交流やデイサービスの設備や道具を使い、生活への潤いを得たり気分転換をしている。個別の買い物や通院の付き添い、医療機関との連携によるスムーズな受診、体調不良時の往診の受け入れなどが行われている。		

グループホームグレイスフル岡谷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居者、家族の意向に沿い継続している。体調の変化や事故等の発生時にはかかりつけ医や協力医療機関に相談し適切な治療が受けられる支援体制が組まれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化する場合は家族と繰り返し話し合い、協力病院への転院や介護保険施設への移動支援（入居調整）が行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を職員は理解しており秘密保持の徹底が図られている。サービス提供時においてもプライバシーを損ねない対応を実践している。言葉かけも入居者の誇りを尊重しつつごく自然に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の様子や体調を見ながら本人の希望にそって散歩や買い物等の外出をしている。入居者が自分のペースで好きに過ごせるよう柔軟に支援している。		

グループホームグレイスフル岡谷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力量に応じ食材の買い物、調理、味見などを職員と共に行っている。食事の準備に参加しない入居者は食器の音や料理の匂いが漂う中で職員とゲームをしたり懐かしいビデオを見たりしている。食事の後は自分で使った食器を洗い、戸棚に片付けることも進んで行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能であり、入りたい時に入浴できるように支援している。嫌がる入居者がいても無理強いせず、時間をかけ本人がその気になるのを待ち入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	意欲や生き甲斐のある生活が送れるように職員は入居者の生活歴、得意なこと、趣味などの情報を共有し、場面作りに取り組んでいる。一生懸命してきた役割に対し手作りの感謝状が贈られ自室に掲げられていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物、ホームの周りの散策以外に車でドライブを兼ねた遠出に出かけている。入居者が平等に外出の機会があるようにチェック表で確認しながら支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが併設施設の二階のため安全面を考慮し玄関のみ施錠している。家族には入居時に説明をし了解を得ている。鍵を掛けることの弊害について職員は認識している。毎月の定例会議でも施錠についての確認をしている。		

グループホームグレイスフル岡谷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月自主防災訓練を行っている。年二回は消防署の指導を受けた避難訓練を実施している。同時に消火器の取り扱い方や通報訓練も行っている。日常の関わりの中で隣近所に災害時の協力をお願いしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせて食べやすいように調理されている。献立は一週間分を職員が入居者の好みを参考に交代で作成している。時々法人内の栄養士に献立内容を確認してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は大きなガラス戸を通して陽が差し込む。廊下の壁には「懐かしい写真館」というネーミングで製糸工場の写真が展示されている。空きスペースを収納場所として利用するなど設計段階からの創意工夫のあとが見られる。南側には広いウッドデッキと芝生の敷き詰められた屋上庭園があり、暖かな時期にはプランターで野菜作りが楽しめる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台があり、収納用のスペースが入り口上部に設けられゆったりとした空間が確保されている。居室の壁に職員手作りの誕生日のメッセージや感謝状が張られていたり、趣味の盆栽や水引き細工、位牌、衣装箱、ベッドなどが整然と配置されており、各入居者の充実した暮らしぶりが窺えた。		

※  は、重点項目。